

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200544		
法人名	医療法人 社団 仁明会		
事業所名	グループホーム青葉		
所在地	宮城県石巻市門脇字一番谷地57番地の19		
自己評価作成日	平成27年 2月 19日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年 3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム青葉は医療法人が経営母体であり、併設の介護老人保健施設の医師・看護師により日常の健康管理はもちろん、急変・異常の際も迅速に対応できるよう医療連携体制を確保しております。長期による入居に伴い、年々高齢化と重度化が進行していますが、『その人ならではの自立』を尊重し、少しでも出来る事を行なっていただくよう支援しています。『年を重ねるごとに自分らしく、笑顔を絶やさず楽しく健康に暮らしたい』をスローガンに掲げ、ゆったり穏やかに一人ひとりのペースで過ごせるよう取り組んでいます。職員は楽しさと親しみを持って入居者の皆様と関わっており、職員・入居者の皆様共に明るく笑顔と笑い声の絶えない日々を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石巻駅から車で10分程の事業所の敷地内に同法人の介護老人保健施設・通所リハビリテーション等が在り、避難訓練や行事を合同で行っている。医療連携がとれている事により健康面で家族の安心となっている。すぐ前が隣接する青葉中学校の生徒の通学路であり、朝夕の挨拶を交わしたり生徒の体験学習を受け入れている。また、近隣の2つの保育園との交流が、入居者の笑顔を引き出している。地域住民との交流を、更に図りたいとしているので期待したい。入居年数が長くなるにつれ介護度が高くなり全員での外出が難しい状況であるが、季節毎の行事を楽しんでいる笑顔の写真が居間に貼られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム青葉**)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に年1回目標を掲げ見直しを行っている。又、入居者様と一緒に考案したスローガンの実践に取り組んでいる。	「運営方針及び基本理念」と、年度ごとに見直される目標を掲げ実践に繋げている。明るく家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりに寄り添い、張り合いと生き甲斐をもって生活できる様支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事や老人クラブのお楽しみ会に招待された。ホームでの大きな行事には地域の方々に参加やお手伝いの協力をいただいている。	町内運動会に招待され競技に参加している。婦人会のお楽しみ会では懐かしい歌や踊りを、また、保育園児の妖怪体操等を楽しんでいる。ホームの夏祭りや餅つきの行事に地域の参加があり、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習を受け入れたり、行事を通じて地域の方達と関り合う機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では各議題事に報告し、その都度、意見やアドバイスをいただきサービスの向上に繋げている。	ほぼ2か月に1回の開催となっている。地域包括職員から紙芝居ボランティアの情報や、民生委員の自宅へお茶の誘いがあったり、メンバーからの避難訓練等の質疑に、丁寧に説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席していただいている。市主催の研修会に参加したり、直接向いたたり電話にて担当者に指導・助言をいただけるよう働きかけている。	市主催の認知症ケア・虐待・食中毒等の研修会と、地域包括主催の精神面のケアについての勉強会に参加している。指導監査では適切な湿度保持のアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の鍵をかけていない。一人ひとりの状態や気持ちに応じた対応を心掛け、行動を制限したりスピーチロックとならぬよう注意して対応している。	法人と合同で身体拘束と接遇向上に関する研修会を行い、部署ごとに課題があれば話し合っている。入居者の行動制限にならない様職員同士で注意し合い、特に言葉づかいに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し勉強会に取り入れている。普段、何気ないことが虐待に繋がっているといった気づきもあり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・研修にて理解を深めている。成年後見人制度を利用されている方が現在も2名おられる為、今後も理解を深められるよう努力していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて納得できるように説明し、疑問点等を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話連絡の際に時間を設けて話を伺っている。相談・苦情等の相談窓口として第三者委員をお願いしている。	支払いは、家族がホームに持参している。家族からは日頃の対応について感謝の言葉が多く聞かれ、苦情等はない。趣味の編み物用の毛糸を買いに行きたくて欲しいという様な要望には、随時個別に支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議時に。又、随時意見や提案を聞き運営に活かしている。併設施設の運営会議等に管理者が出席し、意見や提案を代表者に伝えやすい環境にある。	日頃、職員の提案が運営に活かされ、意見からキャスター付きシャワー椅子・加湿器を購入している。夜勤時の見守りを徹底する為の話合いや「気ばらし観光」に全員で出かける事が難しくなり、今後の対応を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を整え、向上心を持って働けるよう配慮している。シフト表もできる限り希望に沿うよう配慮している。法人独自の考課制度にて実績や成果の反映を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。又、事業所独自で勉強会を定期的開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先等で同業者との交流・情報交換の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では不安を抱えているため、よく傾聴し、安心して過ごしていただけるよう、寄り添った対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安・悩み・要望等、必要に応じて入居者様には席を外していただいた上で、時間を十分用いて伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者・御家族・ご本人との相談も含め、必要に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に活動したり教えていただいたりと、協力し合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告し話し合い、できるだけ協力を得られるよう働きかけている。本人との確執のある御家族には職員が間に入ることで接する時間をもてるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族・親戚は定期的に面会に訪れている。友人が面会に訪れた際は、いつでも遊びに来てくださるよう呼びかけている。外出・外泊され、親戚や近所の方と接している方もいる。	入居者がかつて芸能ボランティアをしていた時の仲間が来訪し、旧交を温めている。盆・正月に2～3泊で家族と過ごしている方もおり、出来るだけこれまでの馴染みの関係を継続出来る様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで互いに関り合えるように支援している。中には他者との関りを好まない方もおり、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人系列のケアマネや地域連携室、他施設を紹介したり、再度申し込みいただき再入所される等、関係を断ち切らないよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を示せる方は少なくなってきているが、コミュニケーションを中心に把握できるよう努めている。失語症の方には十分時間を用いてジェスチャーや選択肢を活用し把握に努めている。	居室で食事を摂っている入居者がいる。家族から、本人のやりたいようにやらせて欲しいという願いに沿う様支援している。表出が難しい方の望みを把握し、その望みをかなえてあげたいと職員は努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にバックグラウンドについて十分伺い、御家族・知人の面会等や本人との毎日の会話の中で少しでも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一般状態の観察・申し送り・各記録の確認等にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で定期的に話し合いの場を設け、本人・御家族の意向をふまえたうえでプランに反映している。月に1回と必要時にカンファレンス・モニタリングを行っている。	「モニタリングシート」に評価も含めて記載されている内容を取り入れ、関係者間で話し合い作成している。趣味の編み物、読書(推理小説)等の楽しみ事をプランに入れ、本人の生き生きとした暮らしの支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度記録し、毎日の申し送りや職員会議、カンファレンス等にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・御家族の状況や要望等に沿った柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散髪等に近所の店を利用している他、消防署立会いのもと防災訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関への受診となり病院側からの理解も得られている。それ以外の病院受診の際は、本人・御家族の意向に沿った病院を受診できるよう配慮している。	社用車で職員が付き添い法人の医療機関を受診し、24時間の協力が得られている。皮膚科・歯科等は、個々に職員が支援し受診している。受診内容は「ケース記録」に記載し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の医師・看護師により健康チェックや相談・指導をしていただいております。緊急時にも迅速に協力を得られる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者・御家族との情報交換・連携を密に行い、入退院がスムーズに行なわれ、退院後もできる限りホームに戻れるよう努めている。入院時は他利用者様と定期的に面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実績は無いが、重度化した場合の対応に係る指針を定め御家族に説明・同意を得ている。併設施設の医師・看護師長・事務長も含め、職員間で方針を共有している。	契約書第8条に記載されている「看取り介護の指針」と、「重度化した場合の対応に関わる指針」により、家族に対応の説明をし同意を得ている。「最後の看取りまで対応します」とあるが、開設以来事業所での看取り支援事例はない。	入居者の介護度が上がっている現在の状況から、事業所が現段階で出来る対応を関係者間で話し合い、方針を共有出来る内容の成文化と、合わせて家族の意思確認をお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を受講し、勉強会に取り入れマニュアルの見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち会いのもと、併設施設と総合防災訓練を実施。その他自主防災訓練を1回行った。夜間は職員一人の為、夜間想定訓練に重点を置いている。	消防署の協力と、法人合同で人命尊重の避難訓練(夜間想定含む)を実施し、通報に関するアドバイス等を頂いている。隣接する介護老人保健施設は150床あり、万が一の事を想定すれば協力が得られるか懸念が残る。	地域住民の協力については予めからの課題であった。運営推進会議のメンバーは近所の方なので協力をお願いし、更に地域の方々の協力も得られる様期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者の目から配慮し、さりげなく声掛け・対応するよう心掛けている。プライバシー保護について勉強会や研修にて接遇の向上に努めている。	馴れ合いの中で尊厳を無視した対応にならないよう配慮し、さりげない排泄支援と入浴時のプライバシー確保を意識している。入居者の苗字が複数の場合は、名前にさん付けで呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度意向を伺い対応している。自己決定できない方には、幾つかの選択肢を用いたり助言する等工夫し、できる限り自己決定できるよう支援し、自己決定できない方は、その人の立場に立って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度やりたいこと等伺っている。居室でのんびり過ごしたい方もいれば、ゆっくり起きて他の方々より遅く食事したりする方もおり、その人のペースに沿った対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりや希望に沿って好みの服を選べるよう配慮し、肌の手入れをする方には化粧水やクリームの準備の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じて準備・片付けを共にしている。食事中は、職員や御家族が楽しい食事時間を過ごせるよう配慮している。献立は食べたい物を伺いメニューに取り入れている。	お喋りしながら・テレビの前で・居室で、と本人の好みに合わせた食事である。家族が本人の隣に同席する事もある。おかゆバージョンのちらし寿司等工夫している。職員作成の献立を、法人の管理栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士にバランス・カロリーをチェックしていただいている。一人ひとりの能力・状況に応じて食事形態・捕食・水分量の確保を心掛け、チェック表にて摂取量・体重の増減を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度声掛け・セッティング・必要に応じて介助し清潔を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方にはチェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、その人に沿った声掛け・誘導を心掛けている。	チェック表と本人の仕草から察知し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。キャスター付きの椅子を押しながら自力でトイレに入る方もいる。夜間は安眠を優先し、おむつやパッドの使い分けで個別の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を主体とした活動を取り入れ、水分量の確保と食物繊維や乳製品を多く含む食物の提供を心がけ、必要に応じて下剤等に調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方がいるが、実は入浴が大好きで入浴時間も長い。入浴するまでに時間や日数を要するが、声かけを工夫する等し、本人のペース・要望で入浴できるよう努力している。	入浴が楽しみで、毎日一番風呂に入る方がいる。一方拒否が強い方は、気の合う職員の声掛けで1か月に2～3回の入浴支援をしている。職員の見守りの下、2時間位入っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のペースや希望に合わせ、各々の好む場所で自由に休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をマーカーを用いてファイリングし、職員一人ひとりが薬の目的・副作用・用法・用量について正確に把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はその方によって年々減少してきているが、バックグラウンドや趣味・特技等の楽しみをもとに、その人に合った好む活動や役割を働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進行しており全体での外出の機会は減ってきているが、個別にて外出の支援に努めている。御家族の協力を得、外出や外泊できるよう配慮している。	近隣には河南の中央公園・海水浴場・日和山公園等の風光明媚な場所が多く頻りに観光外出をしていたが、介護度が上がり全員での外出が難しくなっている。少人数に分けての「気ばらし観光」に切替る工夫と、個別の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり分とは別に、その方によって自由にお金を所持していただいている。ひ孫さんに小遣いをあげたり、買物の際は能力に応じて支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は、その都度本人・御家族の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を出せるよう、家庭的な品々の設置や季節に応じた装飾・花類に利用者様と一緒に取り組んでいる。温湿度や臭い、光加減等配慮し、安心して過ごせるよう配慮している。	適温適湿に管理された広々とした空間の中で、入居者は思い思いに過ごしている。昼食後は居室で過ごす方と、リビングで過ごす方は半々位である。テレビを見たり民謡を唄ったり、楽しそうな雰囲気が伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・談話室・玄関・季節によってはウッドデッキ等、それぞれが自分の場所を確保し、自由にくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた部屋に近い環境に合わせている方もいるが、その方の症状によっては、物があることで不安になることがあり、居心地よく過ごせるよう配慮している。	畳敷きの和室が4室、フローリングの洋間が5室ある。足元が冷えないように絨毯を敷いたり、愛用のベッドや椅子を据え、居心地の良い部屋になっている。スッキリとした部屋が好みの方はあまり物を置かずシンプルである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自ら日付を認識できるよう、手作りのカレンダーを設置したり、必要な箇所に貼紙をしている。		